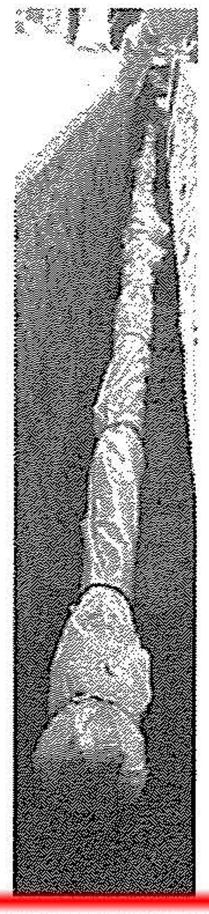
# 改善
# 水改良

## ヨツギ

折り目を活かすので、固定バンドを取り付ける際にも三重部が崩れにくい。シンプルな製品改良ではあるが、施工性と仕上がりの美しさの大幅な向上が期待できる。

同社は創業から70余年、一貫して「安全性の徹底的な追求」をテーマに、このような「現場の声」に応える製品を開発、展開している。

埋設管の損傷や切断事故を防ぐため、地表との間に布設する埋設シート「セフティライン」もその一つ。パワーショベル等が引っかけて破断することのないよう、埋設シートは折りたたまれて布設するものが主流になっているが、同社が初めて商品化した。セフティラインは、今や東アジアなどで国際的にも広まっている。



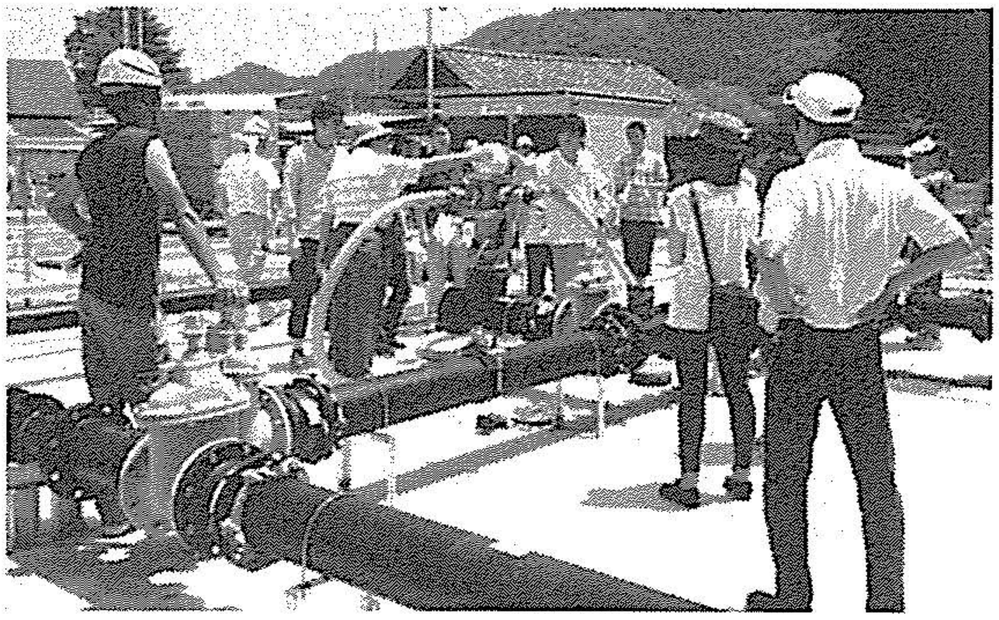
改良前のスリーブ施工

【ヨツギ㈱】 昭和9年設立。手袋・長靴など電気工事・絶縁をはじめ、埋設管保護、通信ケーブルなどの関連製品を手がける。資本金9000万円、従業員約120人(平成25年3月現在)

# 管路内の挙動観察

## 東京研究室 首都大学東京 小泉研究室

首都大学東京の小泉研究室は7月8日、栃木県佐野市の中里建設（中里聡社長）水理研究開発センターで夏期ゼミナールを開催した。



中里建設の全面協力で実現

同センターは、口径75～300ミリのK形ダクタイル鉄管と透明アクリル管を約1000㍍布設、伏せ越しや分岐部も設けており、約800L／分の井戸水を取水・通水できる実流実験装置を設けている。

小泉明特任教授をはじめ教員や学生ら約20人が参加する中、同装置を用いて管路内における砂の挙動を観察するとともに、内視鏡カメラの実演やアクアピグ工法の洗浄実験を視察した。配水池ロボットの操作も体験した。今後も両者は今回のゼミをはじめ、管路の維持管理に関する共同研究等を通して、産学連携を図っていく考え。

冒頭、中里社長は「この実流実験装置は小泉特任教授が委員長を務められた水道技術研究センターのEpochプロジェクトを実践しようと考え建設したものだ」と説明。「日本初の新技術に触れることで、机上ではわからない知見を得るための実学を学び、その知見を将来役立ててほしい」と訴えた。

管路内における挙動の観察実験では、管路内に事前に入れた砂が、管の口径ごとに変化する流速により、どのような挙動を示すかを確認。管底に沈積した砂は流速1㍍／秒を超えると移動し始め、学生らは放水洗管に必要な流速を体得した。

続いて「アクアピグ」による洗浄実験を開始、口径220ミリの「アクアピグ」が発射装置（ランチャー）から発射された瞬間には、学生から歓声が上がった。学生らはピグの開発コンセプトである〝やわらかさ〟を実感していた。

# 東南アジアの人材育成

## JFEエンジ

JFEエンジニアリング（岸本純幸社長）は1日、東南アジアの大学生を受け入れるインターンシップを開始したと発表した。インフラ分野の実践経験を積んだ現地エンジニアが不足していることから、各国の大学生を日本に招き、プロジェクトリーダーとなる人材育成に貢献する。今年度は約20人が研修する予定。

ベトナムからはすでに4人が来日。ミャンマーからも7人が10月下旬から研修を開始する予定。このほか、インドネシアやマレーシア、インド、フィリピンなどの各大学に申し入れている。

今回の取り組みについて、経済産業省の国際プラント・インフラシステム・水「日本の人材拡大すの人材のインフラ実践的で沿って高く評

## 砂・砂利 浄水場用

## 硫化物分散型鉛フリー銅合金